

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
320273	(1,2年)X-21-A-2-320273/ (3,4年)X-21-B-2-320273			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	基礎 専門 専門 × × ×	選択 選択 必修 × × ×	1年 3年 3年 × × ×
授業科目	担当教員	1	前期				
英文講読 1	越智 敏夫						
授業目的							

※注意※

単位数は入学年度により異なる。各自、確認すること。

毎回 300 ワード程度のテキストを講読する。テーマは文化、政治、歴史など、幅広く選択する。また英・米のロックなど、ポップ・ミュージックの歌詞も訳すこともある。授業中には隨時、英語の勉強の仕方の事例を紹介していくようにしたい。また講義内において自らの訳文を学生に発表してもらい、それをもとに英文の内容や翻訳について相互討議もおこなうこともある。

なお、本講義は「高度な語学運用力をもって異文化理解の精神を研ぎ澄まし」、「グローバルな課題に批判的な問題意識と建設的な眼差しをもって向かう実践的な態度を獲得する」ための科目のひとつである。

各回の授業内容

第 1 回	【授】導入 【前・後】事前配付資料を読み込んでくること。4時間相当の事前事後学習。	第 9 回	【授】テキスト 8、翻訳トレーニング 8 【前・後】テキストの指示した箇所を熟読しておくこと。4時間相当の事前事後学習。
第 2 回	【授】テキスト 1、翻訳トレーニング 1 【前・後】テキストの指示した箇所を熟読しておくこと。4時間相当の事前事後学習。	第 10 回	【授】テキスト 9、翻訳トレーニング 9 【前・後】テキストの指示した箇所を熟読しておくこと。4時間相当の事前事後学習。
第 3 回	【授】テキスト 2、翻訳トレーニング 2 【前・後】テキストの指示した箇所を熟読しておくこと。4時間相当の事前事後学習。	第 11 回	【授】テキスト 10、翻訳トレーニング 10 【前・後】テキストの指示した箇所を熟読しておくこと。4時間相当の事前事後学習。
第 4 回	【授】テキスト 3、翻訳トレーニング 3 【前・後】テキストの指示した箇所を熟読しておくこと。4時間相当の事前事後学習。	第 12 回	【授】テキスト 11、翻訳トレーニング 11 【前・後】テキストの指示した箇所を熟読しておくこと。4時間相当の事前事後学習。
第 5 回	【授】テキスト 4、翻訳トレーニング 4 【前・後】テキストの指示した箇所を熟読しておくこと。4時間相当の事前事後学習。	第 13 回	【授】テキスト 12、翻訳トレーニング 12 【前・後】テキストの指示した箇所を熟読しておくこと。4時間相当の事前事後学習。
第 6 回	【授】テキスト 5、翻訳トレーニング 5 【前・後】テキストの指示した箇所を熟読しておくこと。4時間相当の事前事後学習。	第 14 回	【授】テキスト 13、翻訳トレーニング 13 【前・後】テキストの指示した箇所を熟読しておくこと。4時間相当の事前事後学習。
第 7 回	【授】テキスト 6、翻訳トレーニング 6 【前・後】テキストの指示した箇所を熟読しておくこと。4時間相当の事前事後学習。	第 15 回	【授】まとめ。翻訳について。テキストを読むということについて。 【前・後】テキストの指示した箇所を熟読しておくこと。4時間相当の事前事後学習。
第 8 回	【授】テキスト 7、翻訳トレーニング 7 【前・後】テキストの指示した箇所を熟読しておくこと。4時間相当の事前事後学習。	第 16 回	【授】毎回の講義内のレポート等で評価するので第 16 回は開講せず。

成績評価方法

毎回の授業内課題の訳文で評価する。
なお講義内容によっては、講義終了時に受講生にコメントカードを提出してもらうが、それらへのフィードバックとして、次回講義中、必ずその記述内容に対する教員側の意見を公表する時間を確保する。またそれらの傾向や問題点が特に重要で、全受講生に告知する必要があると認められる場合には、大学ポータルサイトの一斉メール配信システムを利用して全受講生に告知する。

教科書・参考書

ポータルサイトにてダウンロード先を指定する。
受講に当たっての留意事項
教員が毎回訳していくので、英語が苦手でも心配しないように。
実務経験のある教員による授業科目有無

実務経験と授業科目との関連性

アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施

○ 過去に学術会議の同時通訳として勤務した経験、また学術書の翻訳者としての経験を生かした講義内容である。

○

学習到達目標

1. 英文の意味内容を日本語で表現するにあたって、日本語としての自然さを損なわないするという意識を鍛え上げること。 2. そのためにも、英文の構造に習熟して、一つの文から複数の主語述語関係を柔軟に多様に読み取れるようになること。 3. 日本語表現と英語表現の本質的な差異について、自分なりの認識を確立できるようになること（これが延いては自分自身の文体を自覚した自分なりの英文翻訳システムを作り上げることにつながっていく）。

JABEE

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習